

入学前準備学習

本学では、例年11月に決定する推薦型選抜による入学予定者に対して、「入学前準備学習」と名付けた通信型のリメディアル教育を用意しています。ともしれば緩みがちな入学までの期間を、大学での「学び」への助走期間にしておこうという取り組みです。本年度は187人を対象に実施。入学予定者は「有意義に過ごすことができる」と、まじめに向かっています。



物理、化学、生物、英語、日本語...

推薦型選抜入学者

基礎知識を確認 「学び」に向け構えづくり

準備学習は、本学開学の2003年に物理、化学、生物の理科系3科目で始まりました。その後、英語、日本語が加わり、現在、計5科目で行っています。理科系科目の場合、高校における履修状況がまちまちなため、準備学習は専門教育につながる基礎知識を学び直す絶好の機会となります。入学後は一般選抜の入学者も加えた講義型の「専門基礎予備講座」も用意されています。

準備学習では、担当教員が自習テキストと自習範囲を指定し、12月から3月までの期間中、課題を挟んでのやりとりを3回行います。各科目とも、基礎知識の確認と定着を狙った課題が多く、毎年、担当教員が工夫を凝らしています。例えば、物理では23の基本的な概念を提示し、計算問題やレポート作成を課しています。担当の竹永和典教授（共通教育センター）は、「準備学

習を通じて、自分なりに整理された理解を心がける訓練をしてもらう」と、その狙いを語っています。このほか、英語ではeラーニングを取り入れ、効率的な学びを目指しています。生物では小テストをQRコード付きで提示、化学とともにメールでの質問も受け付けています。

教員と入学予定者との双方向的な学習は、お互いの距離を縮める絶好の機会にもなっています。日本語担当の渡邊淳子准教授（アカデミックスキル支援センター）は「その年の学生たちの傾向を知ることができ、授業づくりの手助けになる」と考え、ほとんどの学生に短いコメントを返しています。入学後、「コメントありがとうございました」と言って直接センターを訪ねてくれる新入生がいるなど、目に見える「効果」も披露していました。

読書ノートでリーダーシップ養う

総合型選抜入学者

推薦型選抜と同時期に確定する総合型選抜での入学予定者は、「リーダーシップ能力の涵養のための読書課題」と名付けた、別メニューの準備学習に取り組んでいます。これは、自ら読書計画を立て、その計画に従って読書を進めるというものです。今年度は31人が対象。入学後、読書ノー

トを提出します。

入学予定者は、あらかじめ提示された「推薦図書リスト」（42冊）をもとに「1カ月に最低1冊の読破」を目標とした読書計画を立てます。計画は高校の先生に確認してもらい、計画に沿って読書し、読書ノートに記録することになります。

担当する共通教育センターの東谷孝一センター長は「自分で計画し、自分でやり遂げることの大切さを手にすることができた喜びを感じ取ることのできるノートが多い」と、手ごたえを語っています。なお、推薦図書リストは、全ての入学予定者に提示されています。

◆**就勝ガイダンス** 医学検査学科3年生を対象とした「就勝ガイダンス」が16日（水）から18日（金）までの3日間、行われました。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のためWebによるオンライン形式となりました。

ガイダンスは、①就職活動に関する基礎知識を身につける、②臨床検査技師の資格を生かせる様々な職種を学ぶことを目的としています。期間中、履歴書・面接・小論文対策、職種紹介、求人票の見方、SNSの取り扱い方といった各種講座が行われました。中でも職種紹介の講座では、臨床検査技師としての病院や検査センターの仕事や、資格の知識を生かした医療機器メーカーの営業、大学院への進学など、多岐にわたる内容を実際に現場にいる本学卒業生が講演。学生たちにとって大変貴重な時間となりました。

いよいよ就職活動が本格的に始まります。今回の学びを生かして目標に向かい頑張ってくれることを期待しています。

（就職・実習支援課）

◆**ハラスメントへの理解深める** ハラスメント防止研修会が17日（木）、NPO法人福岡ジェンダー研究所の高木里美氏を講師に迎え、「ハラスメントのないキャンパスづくりのために」をテーマに行われました。ハラスメントについての理解を深め、予防と対処について知ることが狙い。今回は、オンラインでの開催となりました。高木氏は、12月から1月にかけて実施した学内のハラスメントアンケート結果を分析し、そのポイントを解説していました。教職員の関心も高く、128人が参加しました。

（ハラスメント防止委員会事務局）



図書館だより 医療系図書...卒業生は生涯利用可

図書館では、卒業式を前に卒業予定者へ、貸出中の図書の返却をお願いしています。同時に卒業後は、卒業生としての利用ができることをご案内しています。

コロナ前は、年間1,600人の卒業生の利用がありました。病院等お勤め先での臨床研究やキャリアアップ等の目的でご利用いただいております。

崎元顧問に熊日出版文化賞
 『熊本橋紀行』
 歩いて楽しむ134本

橋、体感!
次の休みは橋を見に行こう!
橋の研究四十余年の熊大名誉教授による
熊本の橋のガイドブック
熊本日日新聞社 定価2,750円(本体価格2,500円+税)

熊日出版文化賞の受賞が決まった『熊本橋紀行』の表紙

崎元達郎顧問（前理事長）が著した『熊本橋紀行』（熊本日日新聞社）が、第43回熊日出版文化賞に決まりました。県内に架かる橋の中から134本を選び、豊富な写真や地図、データで紹介。審査員からは「歩きながら楽しめる編集」との評価を得ました。

熊日出版文化賞は、県内の個人・団体による優れた著作を毎年顕彰しています。今回は、2021年に刊行された約110点が対象となりました。

『熊本橋紀行』は、橋梁構造工学が専門の崎元顧問と共著者の福島通安さんが、江戸期から現代に至る県内の代表的な橋を紹介しています。県内を7つの流域・地域に分け、橋ごとに簡潔な読み物風のコメントもつけられていて、ガイドブックとしても役立ちそうです。

熊本日日新聞の取材に対し、崎元顧問は「評価していただけてとてもうれしい。実際に足を運ぶことで、まずは橋に慣れ親しんでもらいたい。橋に代表される社会インフラの重要性も読者に伝えることができればと思う」とのコメントを寄せていました。

国内の医療系図書は、電子化されていないものも多く、また価格も一般書に比べ高額です。このような状況下で、本学図書館では、医療系図書を一か所集中で閲覧できる県内唯一の図書館といえます。また、一部の医療系データベースもご利用いただけます。

卒業生は、一生利用できる医療系の図書館です。

週間行事予定 (2月26日～3月4日)	
2 / 26 (土)	大学院 一般選抜・社会人選抜 (Ⅱ期)
3 / 4 (金)	大学入学共通テスト利用選抜 後期日程 情報セキュリティ研修会